

## 研究テーマ ●大学の社会的役割の検討

教育センター・高等教育研究開発部

准教授 伊藤 奈賀子

## 研究の背景および目的

大学とは何のためにあるのでしょうか。大学には何のために行くのでしょうか。

大学や大学生をめぐるのは、好意的なものから否定的なものまで様々な意見があります。現代日本では、高校卒業者の2人に1人が大学に進学するようになりました。大学進学が珍しいことではなく、なった今の社会の中で、大学生が学ぶべきこととは何か、大学が果たすべき役割とは何か、ということ、大学関係者だけでなく社会全体で考えることが求められています。

## ■おもな研究内容

## 1. 大学の教育改善の在り方

近年は大学の教育成果向上が強く求められており、教育改善活動の必要性・重要性も増しています。しかし教育改善活動の多くは、授業改善に偏りがちであり、教員の話し方や板書の見易さなど、わかりやすい部分に目が向けられる傾向があります。大学の教育改善とはそれだけで達成できるのでしょうか。教育センターでは教える技術の改善にとどまらず、大学の教育目的を踏まえたカリキュラムを構築するなど、広い視野での教育改善をいかに実現するかを重視した教育改善に取り組んでいます。

## 2. 教育問題の語られ方

現代の教育問題として様々な論点が挙げられていますが、中にはそうした事実はなく、言説だけが独り歩きしているものがあると考えられます。「家庭の教育力低下」や「若者による凶悪犯罪の増加」などはそうした例の一つです。これらは専門家が必ずしもそうではない事実を実証したにも関わらず、なかなか浸透しません。その理由はなぜか。なぜ事実ではないことが信じられてしまうのか、について分析しています。

## 3. 大学生の文章を書く力をめぐる諸問題

特に私が関心を持っているのは大学生の「書く力」です。大学生が文章を書く力の不足がたびたび指摘され、多くの大学で教育活動が行われています。しかし、そもそも「文章を書く力の不足」とはどのようなことでしょうか。語彙や表現を知らないことでしょうか。書き言葉と話し言葉の区別がつかないことでしょうか。あるいは主語と述語のかみ合った文が書けないことでしょうか。考えられる問題はひとつではありません。「文章が書ける」あるいは「文章が書けない」とはどういうことかを、今一度問い直すことが必要であると考えています。

## 期待される効果・応用分野

大学教育の在り方は、家庭～高校までの教育や社会の動きと切り離せません。大学に行った方がいいと言われていたけれど、それがなぜなのかがわからない高校生、何となく大学に行ったけれど、何をしたらいいのかかわからないという大学生、そんな彼らとのコミュニケーションに迷っている保護者や教育関係者との相互理解を深める機会によって、大学の役割を検討したいと考えています。唯一の正解を見つけるのではなく、共に考え合うことを通して互いの価値を共有していくことが可能です。

## ■共同研究・特許などアピールポイント

●大学生の文章を書く力に関しては、昨年末に博士論文を提出し、学位を取得しました。その後も学会発表などを行い、継続的に研究活動に取り組んでいます。

## 🗨️ コーディネーターから一言

大学の共通教育を運営する立場から、大学の役割を研究。中学高校など教育機関、保護者、市民の方に現状を伝えるとともに、意見交換できる機会を希望します。教育関係のセミナー、ワークショップへの参加が可能です。

研究分野

高等教育、教育社会学

キーワード

大学教育、高等教育、教育言説、日本語リテラシー